

参加費
無料
(要申込み)

未来の 学校フォーラム

～なぜ、いま「教育」を考えるのか～
2026 Spring in 呉

第1回

2026.4/26(日)
14:00-16:45 (開場 12:30)

会場

呉信用金庫ホール
広島県呉市中央3丁目10番1号

第2回

2026.5/15(金)
18:00-20:00 (開場 17:00)

会場

新日本造機ホール
広島県呉市中央4丁目1番6号

第3回

2026.5/31(日)
13:30-15:00 (開場 13:00)

会場

呉青山高等学校
広島県呉市青山町2-1

お申し込み

未来の学校フォーラムのお申し込みは、WEB受付のみとなります。

お申し込み期間：各回ともに開催前日まで

・全3回、単回でのお申し込みも可能です。・当日参加を希望される場合は、会場受付にて手続きをお願いします。
・先着順につき、定員に達した場合は受付を終了致します。

お申し込みは
こちら



主催

 学校法人 清水ヶ丘学園

〒737-0023 広島県呉市青山町2-1
TEL: 0823-22-0012
MAIL: jimu@shimizugaoka.ed.jp

後援

呉市教育委員会

いま、子どもたちの未来に必要な力とは何か。 地域とともに考える、 新しい学びのフォーラム。

変化が激しく不確実性の高い未来に向けて、今の子どもたちに必要な「学び」とは何か。本フォーラムでは、次期学習指導要領についてや、革新的な学びを実践する先駆者の事例、学びにくさのある生徒への対応など、多彩な教育有識者とともに、これからの教育について考えます。単なる講演会ではなく、保護者・地域の方々・教育者が集い、子どもたちの「自律と創造」を育むため、呉全体の教育リテラシーをアップデートする対話の場です。最前線の知見に触れ、未来を共創するムーブメントにぜひご参画ください。

第1回 なぜ今「新しい学び」が必要なのか、次期学習指導要領から読み解く。



2026.4/26(日) 14:00-16:45
(開場 12:30)

会場 呉信用金庫ホール
広島県呉市中央3丁目10番1号

変化の激しい「正解のない時代」を生きる子どもたちに、今どんな力が必要なのか？ 文部科学省 初等中等教育局 教育課程課長 武藤氏を招き、次期学習指導要領が目指す「自律した学び」の真意を読み解きます。単なる知識の蓄積から、思考し創造する力への転換。国の教育改革が示す「これからの学びの姿」を共有し、呉という地域、そして各家庭で何ができるかを共に考えるキックオフ・フォーラムです。



【基調講演・トークセッション】

武藤 久慶 (文部科学省 教育課程課長)

2000年文部省入省。ハーバード教育大学院、ボストンカレッジ客員研究員や北海道教委出向を経て、高等教育政策室長、デジタル庁参事官、学校デジタル化プロジェクトチームリーダーなどを歴任。GIGASTUDX推進チーム統括ディレクターとして全国の学校デジタル化を牽引した。令和6年4月より現職。教育課程の編成とDX推進の両面から、日本の教育改革のグランドデザインを主導するキーマンである。



【トークセッション】

宮田 純也 (未来の先生フォーラム代表理事 / 横浜市立大学特任准教授)

早稲田大学大学院修了後、広告会社等を経て、日本最大級の教育イベント「未来の先生フォーラム」を創設。約2.7億円の奨学金創設や通信制高校設立などに携わる教育プロデューサー。現在は宇都宮海星学園理事や大学准教授を務める傍ら、メディアでの論考寄稿も精力的に行う。起業・M&A、新規事業開発、広報戦略などの知見を活かし、実社会と連動した新しい教育のあり方を提言する論客。

第2回 「新しい学び」と学校改革の方向性と実践



2026.5/15(金) 18:00-20:00
(開場 17:00)

会場 新日本造機ホール
広島県呉市中央4丁目1番6号

AIやDXが浸透する社会で、実際の教育現場はどう変わるべきか。デジタルを駆使した探究学習の実践事例や、地方都市で成功を収めた新しい学校モデルを詳しく紹介します。これからの教育に必要な「思考のモノサシ」とは何か。フューチャリストや教育の第一人者たちが、既存の枠組みを超えて生き生きと学ぶ子供たちの姿、そして教員たちの情熱的な挑戦を語り合い、次世代の教育の可能性を具体化します。



【基調講演・パネルディスカッション】

友村 晋 (フューチャリスト / DX推進コンサルタント)

呉市出身。延べ1万人超への指導実績を持つプロ講演家。生成AI活用やDX推進、Web戦略の専門家として、学校や自治体のリスキリングを支援する。2024年に家族でフィリピン・米国へ移住し、世界のデジタル教育現場を体験。帰国後は呉市を拠点に「未来の学び×デジタル活用」の専門性を活かし、実践型フューチャリストとして地域と教育現場の変革を牽引している。

パネルディスカッション



石川 一郎

21世紀型教育機構理事
宇都宮海星学園理事長

早稲田大学卒業後、国内外の中高一貫校等で教鞭を執り「教師」や「学びのシステム」の再定義を探究。



小野田 一樹

星の社中学校
高等学校 校長

民間企業で23年間教育事業に携わり、世界約40カ国の教育機関を視察する。2020年に起業。2024年より現職。



谷山 早苗

清水ヶ丘学園
教諭

民間企業で23年間教育事業に携わり、世界約40カ国の教育機関を視察する。2020年に起業。2024年より現職。

第3回 多様な学びの在り方～障害の社会モデル、合理的配慮、個別最適化、UDLから考える～



2026.5/31(日) 13:30-15:00
(開場 13:00)

会場 呉青山高等学校
広島県呉市青山町2-1

一人ひとりの個性やニーズに寄り添う多様な学びのあり方を探ります。ICTを活用した合理的配慮の第一人者、ネット活用通信制高校の先駆者と共に、多様性を強みに変えていく学びを考えます。保護者と教育関係者が子どもたちの可能性を信じ、支え合っていくための対話と発見の場です。



【基調講演・鼎談】

氏間 和仁 (広島大学大学院人間社会科学部研究科教授 / 教育学博士)

愛媛県八幡浜市出身。視覚障害や発達障害のある方々の「読み」に関する研究の第一人者。文部科学省「ICT活用教育アドバイザー」やデジタル庁「デジタル推進委員」など公職を多数兼任。Apple Distinguished Educatorとして認定されるなど、テクノロジーを活用した教育のバリアフリー化の推進において、理論と実践の両面から日本をリード。



【基調講演・鼎談】

日野 公三 (明達館高等学校 理事長)

愛媛県大洲市出身。リクルートを経て、1999年にアットマーク・ラーニングを設立。2000年に国内初のインターネットを使った通信制高校を開校した先駆者。2009年に明達館高等学校を創設、更に2013年にはその中に生徒のスペシャルニーズに応える教育拠点「SNEC」を設置、インターネットと対面支援を融合させた教育モデルを確立した。



【鼎談】

辻 佑子 (元呉市教育委員 / 清水ヶ丘学園 UDL 推進ディレクター)

呉市首戸町出身。ディスレクシア専門の留学カウンセラー。また、広島大学客員准教授として特別支援教育の文脈でのICT活用を研究中。多様な特性を持つ生徒たちの「世界を舞台にした学び」を支え、認定NPO法人EDGE理事としても国内でのディスレクシア啓発活動に尽力。